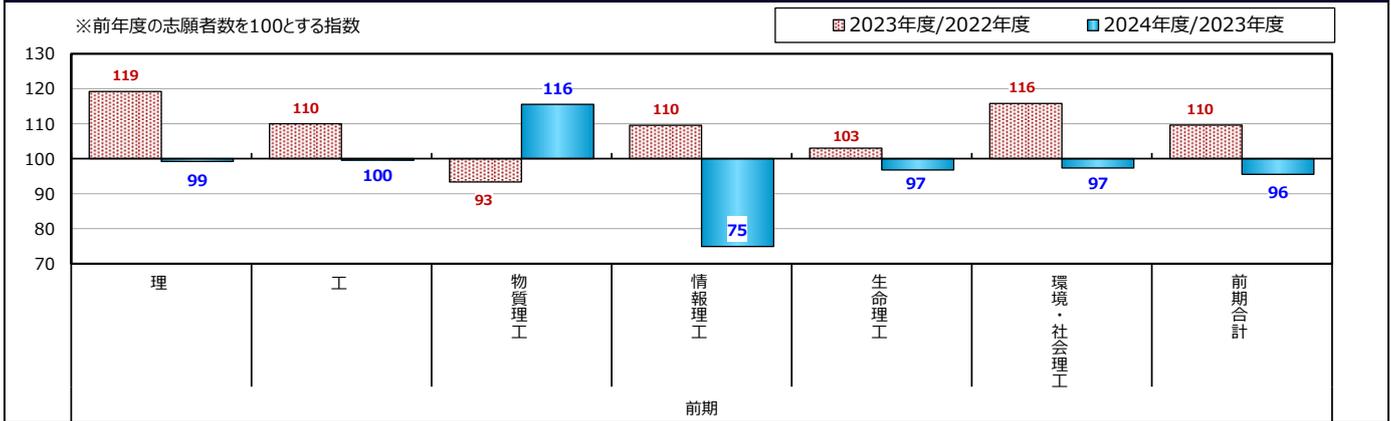


東京工業大：大学全体ではやや減少、学院別では物質理工を除く5学院で減少 前期：-185人



<b>主な入試変更点</b>	選抜方法：全学院<前>…第3志望まで登録可能→第2志望まで登録可能 募集人員：物質理工<前>…160人→138人 情報理工<前>…86人→112人 生命理工<前>…135人→105人 環境・社会理工<前>…92人→80人
----------------	--

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

前期のみの募集だが、大学全体では2年連続増加の反動は小さく、185人(96)のやや減少。学院別では、6学院すべてが前年度と逆の増減。物質理工(116)のみが大幅増加で、他の5学院は減少。特に、情報理工(75)は、唯一募集人員が増加したにもかかわらず大幅減少。2024年10月に東京医科歯科大と統合し東京科学大になるため、東京工業大として最後の入試。

- <前期日程>**
- 理(99)は、前年度大幅増加の反動はなく、前年度並。志願倍率は2019年度の改組後、最も高倍率だった前年度とほぼ同じ5.3倍。
  - 工(100)は、2年連続増加の反動はなく、前年度並。
  - 物質理工(116)は、大幅増加で6学院中唯一増加。募集人員22人(14%)減少も加わり、志願倍率は2.5倍→3.3倍にアップし、2019年度の改組後、最も高倍率。
  - 情報理工(75)は、2年連続増加の反動で大幅減少。募集人員26人(30%)増加も加わり、志願倍率は9.9倍→5.7倍にダウンし、2019年度の改組後、最も低倍率。
  - 生命理工(97)は、3年連続増加の反動は小さくやや減少。しかし、募集人員30人(22%)減少で、志願倍率は2.3倍→2.9倍にアップしたが、6学院中では最も低倍率。
  - 環境・社会理工(97)は、2年連続増加の反動は小さくやや減少。しかし、募集人員12人(13%)減少で、志願倍率は4.5倍→5.0倍にアップし、2019年度の改組後、最も高倍率。
  - 全学院の志願者数の合計が募集人員の4倍を超えた(志願倍率4.5倍)ことで第1段階選抜が実施され、合格率は89.8%。